

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	慶應義塾大学	申請大学長名	清家 篤
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	長谷山 彰
整理番号	A03	プログラムコーディネーター名	神成 文彦
プログラム名	超成熟社会発展のサイエンス		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、平成23年度から平成29年度の7年間に亘って、今後日本と世界が直面する超成熟社会を持続的に発展させるという21世紀の人類共通の課題に取り組むリーダーの資質を養成するため、理工学、医科学、政策・社会科学に亘って文理融合した、主専攻修士・副専攻修士・博士(MMD)による5年一貫の教育システムを構築することを目的とする。骨太の専門に加え独創的な企画力と高いマネジメント力を持つ博士リーダー人材の輩出を目指す。分野横断的な複合課題へ柔軟に対応できる大学院への組織改革や、21世紀COE、G-COE等26件の拠点形成型プログラムにより、ここ10年間で充実させてきた大学院の高度人材育成プラットフォームを持続的にさらに発展させ、今後の大学院改革のパイロットプログラムとするべく、本プログラムでは文理を横断した大学院研究科と外部産官との教育コンソーシアムが共鳴して博士人材育成とそのキャリア形成を進めるといふ、従来にない野心的な取り組みを展開する。

### 2. プログラムの進捗状況

本年度は、プログラム開始から4年目、RA採用から3年目の年度に該当し、本プログラムは初めて、副専攻修士号取得の段階を迎えた。結果は、1期生全員が主専攻の枠を大きく超えた副専攻分野で2つ目の修士号を1年間で取得でき、本プログラムが提唱するMMD教育システムの大きな山場を乗り越えたといえる。2期生は、希望する副専攻研究科の科目の先取りや、ゼミ参加の実績を積んだ。3期生として、新たに12名のRAを選抜したが、その出身は6研究科に分布するとともに、海外大学からの留学生も確保できた。メンター指導によるグループ演習の成果は、政策提言等として纏めるべく体制整備を図った。3月に開催した国際シンポジウムでは、ジェネラリスト教育を進めるフランスのエコール・サントラル ナント校と遠隔による学生討論会を実施した。3期生を全員、2～3月に米国を中心に1人1社、1ヶ月程度の就労を体験する国際インターンシップに派遣した。夏キャンプではチーム対抗発表会を、冬キャンプでは大テーマの集中討議に取り組んだ。ホームページの更新や、Newsletterを8回発行、チラシを新たに作成する等、情報発信力の強化を図り、優秀な学生の応募や出口戦略に資する活動に取り組んだ。外部評価の一環で、11月に日本を代表する企業の人事担当者と学生との意見交換会を実施して、高い評価を受けた。また、3月に超成熟社会の発展に係るフォーラムを学生が企画し、併設したポスター発表において外部評価を実施した。以上により、本プログラムは概ね計画どおりに進捗できたものと考えられる。